

1 目的

ひきこもり者を支援する機関（以下、「支援機関」という。）は市町村主体による取組等により増加してきているにも関わらず、教育や福祉など他分野で事業展開されているため支援機関の機能や役割の把握が難しく、支援機関間の連携による効果的な支援を展開できていない側面がある。ひきこもり者がその個別性に合わせた支援を受けることにより、地域でその人らしい生活を送るために、官民の枠を超えた支援機関による取組や課題を共有し、ネットワークの展開を推進する。

2 モデル市との取組

A市

6年度・7年度

福祉分野と教育分野との連携構築

- ▶ 実態調査等
- ▶ ワーキンググループ 2回
- ▶ ネットワーク会議 4回



B市

社会福祉協議会をコアとした市・関係機関とのネットワークづくり

- ▶ 実態調査等
- ▶ ワーキンググループ 5回
- ▶ 市主催会議への協力 1回



7年度

3 圏域での展開

*ひきこもり支援の中核機関：
ひきこもりの相談や支援、取組を推進している機関等

7年度

▶ 地域精神保健ネットワーク会議 1回

課題別地域保健医療推進プランの総括。取組成果のまとめを周知・共有し、官民連携によるネットワークづくりを推進する。

- 取組成果の共有
 - ひきこもり支援の現状と課題を圏域全体で共有・意見交換
- 参加：圏域6市のひきこもり支援の中核機関職員*（行政・民間）

▶ ネットワークづくりに関する冊子の作成

ひきこもり者が適切な支援に繋がり、支援者が個別性に合わせた支援を継続するための連携ポイント等をまとめた冊子を作成

- 背景の異なる2市のネットワーク構築に向けた取組の紹介
- 実態調査及び会議で活用した様式の紹介
- スーパーバイザーによる解説の掲載

▶ 保健所ホームページ「ひきこもり支援」のリニューアル

